平成２９年度第１回

岩見沢市総合教育会議

議　　事　　録

日　時：平成３０年２月９日（金）午前１０時開会
場　所：岩 見 沢 市 役 所　　第 １ 会 議 室

１．開　　会

２．市長挨拶

○松野市長

本日は、昨年２月以来の「総合教育会議」ということで、現在の「教育大綱」が本年度末で終期を迎えるにあたりまして、次の新しい「教育大綱について」を議題として、皆様と意見交換をさせていただきたいと思います。

さて、現在の「教育大綱」でございますけれども、平成２７年４月に施行されました、いわゆる改正「地方教育行政組織運営法」におきまして、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長と教育委員会との連携強化などが図られるとともに、地方公共団体には、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることについて法定化されたことを受け、同年５月に、この「総合教育会議」を設置し、委員の皆さまと意見交換を積み重ねながら、同年１２月に、平成２９年度までを期間として、策定したものでございます。

大綱の策定から２年あまりが経過いたしましたが、この間、当市におきましては、今年１月の新しい学校給食共同調理所の供用開始、また、現在、来年１月の供用開始に向けて工事が進められております中央小学校の移転新築など、子どもたちが安心して教育を受けられる環境の整備や、昨年４月の栗沢認定こども園のオープン、子育て支援拠点であります「えみふる」の機能強化など、子ども・子育て支援の充実、また、学力の育成や、体力の向上など、大綱の基本方針や施策を、市長部局と教育委員会との連携により、ある程度、形にすることができたのではないかと考えております。

しかしながら、その一方では、昨年８月に、現在の大綱では想定していなかった市立高校であります緑陵高校の間口削減という、教育の充実を目指す当市にとりまして、非常に難しい判断をさせていただいたのも事実でございます。

少子化や人口減少は、全国の多くの自治体が抱える課題でございます。当市におきましても、これを市政の最重要課題として位置づけまして、平成２８年１月に策定いたしました人口ビジョンや総合戦略に基づきさまざまな施策を進めておりまして、社会動態における人口減少の鈍化、一定の改善もあらわれ始めております。しかし、中学校卒業者を含めた児童生徒の減少傾向につきましては、当面は避けられない状況であるのも現実でございます。

現在の大綱でも、教育はまちづくりであるということを理念として教育の充実を図ってまいりました。そこには、質の高い教育が受けられる、子ども・子育て支援体制が充実している、さらには、教育や生涯学習との環境が整っているということなど、将来の岩見沢を担う人材の育成はもちろんのこと、人口減少対策という観点からも有効な施策であると考えているところでございます。

新しい教育大綱の策定に当たりましても、こうした基本的な部分の考え方は変わりがあ

りませんが、教育を充実させるということは未来のまちをつくる作業だということをさらに強く念頭に置いております。

本日は、これからの教育や学校のあり方を含め、岩見沢の子どもたちの多様なニーズや限りない可能性にどのように応えていくのか、また、他の地域からも岩見沢で学びたいと思っていただけるような教育環境をどう構築していくのか、そのために、市長部局と教育委員会、地域や関係者がどんな役割を果たしていくことができるかなど、さらに一歩踏み込んだ意見交換をさせていただき、新しい教育大綱に反映させ、現在、策定作業中の総合計画とともに、岩見沢の未来につなげていくことができればと考えております。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

３．議　　事

○事務局

それでは、議事に入りますが、まず、皆様にお配りしている資料の確認をさせていただきます。

次第と、本日、総合教育会議にご臨席賜っております皆様の名簿、岩見沢市教育大綱（第２期）のたたき台、教育大綱の施策対照表をお配りしております。

また、１点訂正をさせていただきます。

次第の日時が平成３０年２月９日月曜日と書かれておりますが、本日は金曜日ですので、こちらを訂正させていただきます。

それでは、次第に沿いまして、議事（１）岩見沢市教育大綱について、事務局からご説明させていただきます。

○事務局（森田主幹）

企画調整担当主幹の森田と申します。

私から、本日お配りしております教育大綱のたたき台に基づきましてご説明させていただきます。

こちらは、教育大綱（第２期）たたき台ということございますが、本日までに、私ども事務局と教育委員会の事務局で調整させていただきまして、ある程度のたたき台をご用意させていただきました。こちらの中身について説明させていただきます。

まず、１枚めくっていただきますと、「はじめに」ということで、大綱の策定に当たってと大綱の位置づけについて記載しております。

こちらにつきましては、平成２７年４月の法改正以降の改正のデータや第１期の大綱策定に至ったデータ、あるいは法的根拠などを記載してございます。

その次のページには、関連計画との整合性について記載しております。

こちらは、先ほどの市長の話の中にもありましたけれども、現在、たたき台には（仮称）と記載しておりますが、総合計画も策定作業が進められております。その中には、この総合計画とか人口減少対策の対応として策定している総合戦略、あるいは、教育関係では子ども・子育てプランや社会教育中期計画などと連携をとりながら一体的に施策を進めていくという考え方を記載しております。

また、文章の下から２行の部分に記載しているのですが、計画の期間についてです。

前回の第１期目の計画では３年の期間を設けさせていただいておりました。ただ、ちょうど総合計画が平成２９年度、今年度末で終わるということがありますので、そこに合わせた側面も実はございました。今回、計画大綱（第２期）をつくるに当たりまして、今回も同じような考え方で総合計画に合わせることになりますと、総合計画は１０年間という長期的な視点でつくられるものですから、やや長くなってしまいます。また、少子化や社会の状況が急速に変化していく中で、あえて期間を設けない形にして、何かあったときに状況の変化に柔軟に対応できるように考えていきたいということで、ご提案させていただいております。

続いて、３ページですが、基本理念を記載しております。

「教育は、未来を生きる人を育てることを通して、未来を創造する営みであり、人を幸せにするものです。一人ひとりの持っている可能性を広げ、伸ばし、より豊かな人生を過ごせるように導きます。教育によって次世代を担う人づくりがすすめられ、学びを通じて人がつながり、岩見沢のまちづくりがもっと魅力的になります。豊かな心や健やかな体を育む、教育、文化、芸術、スポーツのまちづくりに向けて温かく、心のこもった教育を推進します。」という基本理念を提案させていただきます。

次に、重点項目でございます。

こちらにつきましては、基本的な項目立ては前回の計画と変更ございませんが、あわせて４ページをごらんいただきたいと思います。

文言などは状況に合わせて修正している部分はございますけれども、基本的な体系、重点項目、施策とも前回のものをさらに一歩進めた形で考えていきたいということで、構成としては前回と同じですが、そのような文言の修正等を行っております。

次に、５ページです。

ここからは、施策ということで七つの重点項目ごとに記載してございます。

まず、重点項目１は、新しい時代に対応できる力の育成でございます。

教育は人づくり、将来のまちづくりというお話がございましたけれども、学力の向上など、岩見沢市の特徴、高度な情報通信基盤、外国語教育等の充実などを進めまして、岩見沢ならではの教育を展開していきたいということで記載しております。

個別の項目につきましては、お手元にもう一つ配付しておりますカラー刷りの施策対照表という資料がございます。こちらに前回との比較について見やすい形で記載してございますので、こちらもあわせてごらんいただければと思います。

重点項目１につきましては、現状と課題の考え方に基づいて、四つの項目に整理させていただいております。

次に、６ページの重点項目２の豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進でございます。

こちらも、将来の岩見沢を担う人材という考え方をもとに、人間性と健やかな体を育成することに今まで以上に力を入れて進めていきたいということで、項目を整理させていただいております。

現状と課題にも記載しておりますが、平成２９年は、平成２７年と比べますと、学力、体力ともに向上しているという調査結果が出ておりますことから、こちらをさらに進めていくという考え方で整理をさせていただいております。

次に、重点項目３の育ちと学びを支える教育環境の充実でございます。

こちらにつきましては、学校などはもちろん、家庭や地域なども含めて、岩見沢市として子どもたちの学びや成長を総合的に支援していくという考え方から記載させていただいております。

次に、重点項目４の子ども・子育て支援の推進でございます。

こちらも重点項目３と共通する部分もあるのですが、特に子育てという部分に着目いたしまして、岩見沢の子育ての環境をさらに整えていくということで、相談支援体制あるいは制度的な部分も含めてさらに進めていくということで整理させていただいております。

次に、重点項目５は、市立緑陵高等学校の教育の充実でございます。

こちらについては、先ほど市長からもお話がありましたが、緑陵高校の間口の減が決定されておりまして、少子高齢化ということもあるのですけれども、これから岩見沢市の特色ある教育をどのように進めていくのかということを基本として記載しております。

こちらについては、この後のご議論の中でご意見をいただきながら、いろいろと考えてまいりたいと思っております。

次に、重点項目６の学校給食の充実でございます。

平成３０年１月に新しい調理所が稼働しましたけれども、これからその調理所を食育などの部分でどう生かして子どもたちの将来につなげていくかということを基本的な考え方として記載させていただいております。

次に、重点項目７の社会教育の推進でございます。

こちらは、子どもたちというより、もう少し枠を広げまして、生涯学習や子どもから高齢の方までの全ての方がライフステージごとに、学ぶことの楽しさや、生きがいのある豊かな生活を送っていただくためにはどうしたらいいかということで、５項目について記載させていただいております。

済みません。途中、漏れてしまったところがあるので、７ページにお戻りいただきたいと思います。

重点項目３の育ちと学びを支える教育環境の充実でございます。

ここに、①学校・家庭・地域の連携ということで記載しております。基本的な項目立ては前回と変わらないのですが、地域ぐるみで岩見沢の教育や子育て支援を進めていきたいということがありまして、今回、①の部分については新しく項目立てをさせていただきました。

以上、本当に駆け足で申しわけないですが、たたき台の構成についてご説明させていただきました。これは、あくまでたたき台でございますので、皆さんからのご意見をいただいた後、それを踏まえていろいろと調整していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○事務局

ただいま、教育大綱のたたき台についてご説明させていただきましたが、ご意見、ご質問等はありますか。

○松野市長

各委員の皆様はそれぞれに日ごろ教育について思っていることがおありでしょうから、ご意見をいただければありがたいと思います。

僕が指名しましょうか。

○武蔵委員

これは大綱になるのでが、普遍の部分を含む中長期の計画を盛り込むということだと思います。そして、現状と課題はすごく的確に把握しているのですが、これを書いてしまうと、達成した後にこれを見たときに、ちょっと不思議に思うと思うのです。

まず、市長がつくる大綱となっておりますので、市の総合計画としてまとめている教育の部分はきちんと載っていると思うのですが、最終的に目指すところは魅力ある岩見沢市ということですから、ここに住んでよかった、ここで生活してよかった、ここで子どもを産んでよかった、そういうところになるような教育の環境を整えるというのがその意味かなと思いました。

その中で、学校教育の部分がすごく細かく分かれています。ですので、もう少し整理したほうがいいと思いました。中身としては、全然問題なくて、幅広く網羅していると思います。

○秋山委員

内部的には、前回の大綱と比べて多少変わったところはありますけれども、いいのでは

ないかと思います。

岩見沢市がこれから人を呼び込むという中で教育は重要です。ほかの行政では女性という部分に重点を置いているところもありますが、それとプラスして、ケアがきちんとできるようにして、子どもたちが岩見沢に来て、ここで勉強をしてよかったと思えるということが中心になっていると思います。

現状としては、本当に的確に捉えている部分もあると思います。今回は長期ということで見ておりますが、どうしても細かい部分を達成するとまた次にということが発生するかと思いますので、そこは広い形で表現しておいたほうがいいのではないかと思います。

本当に細かく考えられておりまして、施策的にも考えられている部分もありますので、それはそれでいいのではないかと思います。

○松野市長

渡邉委員はいかがでしょうか。

○渡邉委員

一番気になったのは、先ほど皆さんがおっしゃったように、教育その他が充実している岩見沢に行きたい、岩見沢の学校に通いたい、いろいろな支援もそうですけれども、重点項目に教育が出てきて、学力、体力の面で下回っているところは、ちょっと悲しいなと思います。

学力向上だけではなくて、雪の中ですけれども、体力的なことも含めてもう少しできないかと思います。

先ほどの緑陵高校の関係でもそうですが、岩東、緑陵、農高と自分はここに行ってこれというふうにはっきり分けていって、特に私は緑陵高校にいたからなのですが、ここはだめだから緑陵高等学校に行くということではなく、緑陵高等学校に行ったらこんなにすごいものがあると。

パソコンを見せていただいたときも、こんなにすばらしいところなのだから、そこにもっともっとみんなが目を輝かせて来てくれたらいいなと思っています。やはり、はっきりとした目的を持って、特に市立ですから、もっと目を輝かせて緑陵高校に来るという子どもたちを集めたいという思いがあります。

そこで、１学期削減ということで、岩見沢に住んでいる子どもたちが２年後、３年後に考えて、もしかして行くところがないというふうにならないようにしてあげたいし、そういうところが重点項目にいろいろと書いています。教育のまち岩見沢的なものが何かしらあるので、岩見沢でということをもっと魅力的に、学力も全国より上、体力も上というふうに頑張って指導していけたらなという気がしました。

○松野市長
　杉野委員はいかがでしょうか。

○杉野委員
　どの地域にも少子高齢化や人口減少という大きな課題がある中で、どの自治体でもさまざまな施策が実施されていますが、その成果を出すというのは非常に難しいかなという気がしています。その中で、岩見沢市の教育を見ると、そういう大きな課題の改善に向けて基本理念をきちんと定められております。
　この基本理念は、本当にすばらしいと思います。その理念に基づいて、現状と課題を七つに分けていただいているのですが、本当に的確に捉えていると思います。現状と課題の改善、充実に向けて、具体的な施策が何点か書かれておりますけれども、どの施策を見ても、子どもたちにとっても、子育てをする親にとっても、本当に手厚い、心がこもった温かい施策が掲げられていまして、これが成果に少しずつ結びついていくのではないかと思っております。根気強く継続して取り組んでいくことが大事だと思います。

○松野市長
　三角教育長はいかがですか。

○三角教育長
　昨年の１０月に、札幌市から幌向に新婚夫婦が転居してきました。その理由は、岩見沢で子育てをしたい、岩見沢の学校で子ども学ばせたいということで、親は札幌に通いながら、子どもを岩見沢市で学ばせています。それから、地元の栗山から南小学校に子どもたちを通わせたいということで、南小の校区に住居を構えた方がおります。
　教育はまちづくりということを非常に実感しています。質の高い教育と子育て支援が充実していけば、間違いなく、市長が言われている教育はまちづくりということが実現可能になってくると思います。
　もう一つは、幼児期から市立高校というつながりを出すことによって、後期中等教育まで一貫した教育体制がとれていくと、さらなる教育の強みを出せていけるのではないかと思っているところです。

○松野市長
　私があまり言って決めつけたような議論として聞かれると困るのですが、渡邉委員がおっしゃったように、かつては教育のまち岩見沢ということがよく言われておりました。岩見沢の教育は、ほかのまちから一歩ぬきんでていると思います。それだけの環境と中身の充実があるというのは、教育そのものの持っている大きなポテンシャルだと思います。
　これは、先ほど武蔵委員と秋山委員からもご指摘がありましたが、この２年間の中であ

る程度達成できつつあるものが幾つかあるのも事実です。施策体系としては、現行の体系を維持しながら、個々の中身を見ると、教育大綱の施策対照表の中でも時代に合わせて変えているところもありますし、より個々のレベルアップをしていくということが必要というのは当然のことですし、杉野委員がおっしゃるように、短期的にすぐに成果が出るというものは少ないわけですが、だからこそ、継続して、同じ共通認識で取り組んでいくということは、保護者の皆様に与える安心感も含めて重要だと思っています。

また、この大綱というのは、自治体によってはＡ４判の１枚のところも実はあるのです。それぞれ温度差があるのですけれども、岩見沢市の教育大綱は、施策体系も含めて細かく書かれております。

先ほど杉野委員からもご指摘がありましたように、基本理念というところは前回の記述から大きく変えておりますが、私自身、この基本理念は、岩見沢の教育の目指す方向性が大変わかりやすく、いいのではないかと思います。この理念を共通化しながら、市長部局と教育委員会が連携してやるということが大事です。

ですから、この教育大綱についていろいろとご議論いただいて、それをベースに置いて、各年の事務事業評価、施策評価は、予算を含めて、夏と秋にサマーレビュー、オータムレビューをやっておりますので、それぞれ協議しながら方向性を出していきたいと考えております。

また、アクションプランについては、予算もしくは施策、事務事業の検討の中で具体化して、それを毎年検証しながら必要な時期に教育大綱の見直しも図っていくという形だと思っています。

その中で、岩見沢の教育は「生まれる前から、生まれてから」という考え方ですけれども、生まれてからずっと小学校、中学校の学校教育、特に市立高校を持っているということで、後期中等教育まで進める可能性があります。

その中で、先ほど申し上げましたとおり、緑陵高校の1間口減が平成３２年度からですが、それに向けて、どういうことが充実した高校としてレベルアップを図っていくかについては、より踏み込んだ議論を早急にしていきたいと思っております。それをどういう形でやっていくのかということも重要な観点になってくると思っています。それは、今後、できるだけ早くそういった方向性について共通認識ができるようにしていきたいと思っております。

大綱ということで、全体を見通した中での表現になっていますが、そうは言いながらも、教育自体、国の学習指導要領の変更などによっては随分変わりますし、英語教育の充実という課題もありますし、それを岩見沢でどう展開していくのかというのかという課題があるわけです。

ただ、渡邉委員がおっしゃったように、子どもたちの学力を上げて、健康な体をつくっていく、そのためにどうすればいいのか、それは一つのことで解決できる問題ではないので、いろいろな取り組みを重ね合わせてやっていくということがまさに教育大綱だと思っ

ております。

○武蔵委員

毎年、教育行政の方針を出して、個別具体的な取り組みはこれに基づいてつくっていくわけです。Ａ４判１枚あればいいというところもあるようですが、これに書かれることによって、きちんとした縛りができますので、ここにずっと着目してやっていかなければならないということになります。でも、これはこれでいいと思います。

○三角教育長

この大綱の中に、教職員の資質の向上というところがあります。

やはり、子どもたちにとって、あるいは学校運営にとっても、学校経営にとっても、授業というものが一番重要なものになりますので、授業を充実させていく上でも教職員の資質の向上というものは具体的な課題として挙げる必要があると思います。

そういう取り組みをしている学校もありますが、取り組みを岩見沢市全域に広げて、教職員の方々の共通認識を図りながら、その成果を子どもたちにサポートしていくということも重要だろうと思います。

結果とか成果もありますが、それをどのように進めていくかです。ハードも大事なのです。特に、どのようにしていくのかということを示す必要があります。

総合教育会議というのは、教育大綱をもとに議論する場ですが、それ以外に、時期を見て、ほかの皆様方と意見交換をするということもあってもいいと思いました。

○松野市長

特にこれは問題だという喫緊の課題などはございませんか。

○武蔵委員

あくまでも大綱のことで言いますと、学校給食の充実というものを１項目置いているのですが、今、新しい施設ができたという注目する部分があるのですが、前回入っているのは、食中毒を起こしたけれども、それを二度と起こさせない、そして、新しい施設をつくってやっていくということで１項目を置いたのだと思います。ですから、今、この項目がどこかに盛り込まれてもいいのかなと思います。

○松野市長

そうですね。

また僕が言うと決めつけたと思われるかもしれませんが、新しい施設が稼働してＨＡＣＣＰを含めた取り組みがかなり進んできています。ハード的な整備は終えたので、今度はその機能をどう展開していくかという部分があると思います。学校給食の充実としてのハ

ード整備はもう終えているので、もっと別の表現で食育とか、ちょっと知恵を絞ってもいいのかなという気がしながら説明は聞いていました。多分、ハード整備だけであれば、それはすぐに終わってしまうということがあるかもしれませんが、そうではありませんね。

○武蔵委員

記者の皆さんもいらっしゃるので、学校給食は、これまで課題がたくさんあったのですが、それを起こさせないということで委託契約もしておりますし、ほかにないような設備をしたということですね。

○松野市長

さらに機能をどう生かしていくかですね。

○松野市長

ほかにいかがでしょうか。

○武蔵委員

緑陵高校の問題については、市立の高校は１校ですが、岩見沢市の高校の実態を考えると、今回、問題になった岩農については、本来、空知南学区で定員がどうこうというレベルの高校ではなくて、岩農と美唄聖華は別の間口と捉えていただかなければならないと思います。そのような中でも、普通高校の間口が、岩東も減っていますし、西高も今度また１間口減、そして緑陵高等学校が１間口減で、それぞれの高校の機能自体が低下せざるを得ないですよね。間口が減るということは、教職員も少なくなるわけですから。それは、道教委の考え方が一番の基本になるのですけれども、そこで、３校の再編も含めたことは考えなければならないだろうと思います。

その中で、緑稜高校はどれだけ魅力のある学校にしていくかということは、それはそれとして進めていかなければならないと思います。

○松野市長

今の募集状況を見ると、緑陵高校は、普通科、情報コミュニケーション科ともに定員をオーバーしている状況です。それイコール学校評価とはまたちょっと違うところがあるのですが、それだけの入学希望者がいるということについては、直接マイナスとはならない。それを次の展開にどうつなげていくか、そこを具体的にどうするのか、ハードですね。もちろん、学校はもとより教育委員会と市長部局がしっかりやらなければならない。

○武蔵委員

その中にあって、岩見沢の小中学校は、望めばどこの学校にも行けるという子どもを育

ててあげないといけないのだろうと思います。

○三角教育長

先週の金曜日に岩東の校長とも話をしたのですが、緑陵高校は市立の強みがあると。また、緑陵学校としての魅力もあると。それを高めていく高校にならなければいけないと。もう一方では、岩見沢の優秀な子どもたちが、中学校受験で札幌に行ってしまう、あるいは高校受験で札幌に行ってしまう、そこを何とか食いとめて、岩見沢で岩東に行けばこうなる、緑陵に行けばこうなる、西高に行けばこうなる、岩農に行けばこうなると、それぞれの高校が魅力ある教育、質の高い教育を提供するようにしなければだめだという話をしていました。そして、そういったベースを話し合えるような取り組みをしたいという話をしていました。

既に、日高にそういう機能があるようなので、そういったことを取り入れながら、緑陵だけがということではなく、市内の高校がそれぞれに魅力を発信して、市内で教育が完結できるような取り組みはできないかという投げかけをしています。

○松野市長

それは絶対に必要なことだと思います。かねがね道立と市立の壁のようなものがあって、市教委が道立のことに首を突っ込んでいいのかと思われていた方がいたのも事実です。ですから、そこを、子どもを中心にした、プラットホームみたいなものがあっていいと思います。

○三角教育長

それをやりたいなと思っています。

一方では、武藏委員がおっしゃるとおり、義務教育の子どもたちの学力をしっかり上げて、下支えができるようにするということが重点ですね。

○松野市長

そこは、子どもたちの人生に直接影響してくるところというような認識であります。

○三角教育長

義務のところでは、学校間格差、教師間格差、（授業の）力量格差をなくすためには、今求められている授業のデザインは何かということを具体的に示していく、そしてそれに統一していく、それをさらに各学校がデザインしていけばいい話なのです。それを抜きにしていては、口だけで質の向上と言っているだけになってしまいます。そこに手を加えたいと思っています。

○武蔵委員
　教育長の塾を開催して、指導者育成に努めるということですね。

○三角教育長
　来年は倍増します。

○武蔵委員
　緑陵の進路の部分ですが、国公立に２桁はという話を市長ともずっとお話ししておりました。

○松野市長
　緑陵高校は、国公立を目指す子どもが余りいないということがあります。それは、センター試験の問題もありますし、センター試験の受験者数がそもそも少ないということがあります。指定校制度で、道内であれば一定のところに進学できるという強みもあるのは事実です。
　ただ、皆さんには余り知られていないかもしれませんが、昨年、情報コミュニケーション科の卒業生で明治大学に進学した子がいます。全商や日商などの試験を全国のトップクラスで資格取得をしていたのですが、彼は大学２年生の２０歳で公認会計士の試験に受かりました。これは、明治大学としてもかなりの快挙なのです。３年生で受かった人はいるのですが、２年生ではなかなかいないそうです。そういう人材も輩出しているのです。
　ですから、そういう可能性を広げることも可能なところがあるのです。ですけども、やはり国公立を含めてもう少し進学を、また、進学先も多様化していいと思っています。どうしても安定的に道内の市立大学の指定校制度を使って進学ができるということはあるのですが、さらに上のレベルと言うと語弊があるかもしれませんが、多様な進路の選択ができるような環境にあるので、そういった高校はあってもいいかなと思っています。
　２０歳で公認会計士の資格を取得するのはすごいですよね。

○三角教育長
　税理士ではなく会計士なので全科目をとらないとできないはずです。

○松野市長
　たまたま､明治大学の経営のほうに金子先生という岩見沢の北村出身の先生がいまして、東京岩見沢会の会長なのですが、ぜひ明治大学にも岩見沢のお子さんに来てほしいということをおっしゃっていました。
　入ったときから、この子は２年生くらいで合格するのではないかと言われていたようです。ほかの先生方がそう言っていたそうです。先輩方も、この子は合格するよと言ってい

たそうです。

○秋山委員

そういう意味では、緑陵高校はもともと商業高校と女子高が一緒になってもう４５年ぐらいでしょうか、私が１期ぐらいだと思うのですが、そういう専門の部門の技術がどんどん上がってきて、やはり、そういうところが求められている部分もありますね。就職を考えると、一つのスキルとして必要な部分がありますので、そういうことは重点的にきちんとやっていく必要があると思います。そういう点では、緑陵高校も一つのアイテムとして必要ではないかと思います。

○松野市長

ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○松野市長

それでは、今回いただいた意見などを踏まえて、さらにたたき台をそれぞれの担当のところに持ち帰りまして、成案に向けていく作業を進めていきたいと思います。

ただ、あくまでも大綱ですので、それを具体的にどうしていくのか、事務事業については、総合教育会議という場に限らずいろいろと意見交換なり意思疎通を図って、共通認識を持ちながら進めていきたいと思っております。これは、絶対に必要だと思います。

そういうことで、よろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局

ありがとうございました。

それでは、今、市長からもお話がありましたとおり、本日いただきましたご意見をもとに、市長部局の事務局である企画室と教育委員会の事務局のほうで連携調整を行ってまいりますが、必要に応じてまた皆さんのご意見を伺うなどして大綱の策定を進めてまいりたいと思います。

続きまして、議事（２）のその他でございますが、委員の皆様から何かございますか。

（「なし」と発言する者あり）

○事務局

ご意見がないようですので、本日予定しておりました議事につきましては、以上で終了したいと思います。

４．閉　　会

○事務局

以上をもちまして、平成２９年度第１回岩見沢市総合教育会議を終了いたします。

以　　上